

普及活動情勢報告（平成29年9月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

産地に納入されるシシトウ苗の品質向上を目指して ～種苗会社視察～



視察の様子

8月25日、JA土佐くろしおハウスシシトウ部会10名が種苗会社を訪問し、納品される苗や育苗施設を視察しました。

生産者は苗の根張りの状態を確認し、温度やかん水管理、試験品種について質問を行い、積極的な様子が伺えました。

種苗会社と生産者が情報共有したことにより、産地に納入される苗の品質向上が期待されます。

農業改良普及課では、さらなる品質・収量の向上を目指して、これから栽培が本格化するハウスシシトウの巡回支援等を強化します。

できることをひとつずつ ～つの茶販売戦略会議を開催～



産地の維持・発展を真剣に話し合う
メンバー

8月28日、JA津野山営農センター輝で茶生産組合役員、満天の星、関係機関等14名が参加し、つの茶販売戦略会議が開催されました。

会議では、平成29年度の茶に関する状況報告や、フランスのジャパンエキスポ2017での、つの茶の試飲販売の状況が報告され、津野町から輸出に向け前向きに取り組みたいとの意見が出て、今後その可能性について検討することとなりました。

農業改良普及課では、生産現場への技術指導とともに、つの茶の輸出についての情報収集を行うなどの支援を行っていきます。

労務管理のポイントは？ ～はちきん農業大学須崎地域講座の開催～



会の様子

9月14日、はちきん農業大学を開催し、社会保険労務士を講師に招き「農業での労務管理のポイント」について学びました。

参加した女性農業者は熱心にメモを取りながら、随時質問するなど、和やかな雰囲気学び、「労務管理についてさらに詳しく知りたい」「税務についても学びたい」など今後の講座内容を希望する声も聞かれました。

農業改良普及課は、今後も女性農業者の活躍促進・交流に向けて、関係機関と連携して講座を開催していきます。

直販の出荷量拡大を目指して ～中土佐町直販所研修会の開催～



8月28日午前・午後の2回に分けて、中土佐町で直販所出荷者25名の参加を得、秋播き野菜の栽培研修会を開催しました。

農業改良普及課は、主な秋播き野菜の栽培方法や直販所ならではの注意点を説明しました。出席者からは、「トウモロコシを作ったが粒がまばらになる。」「ニンジンの連作は大丈夫か。」など、日頃聞けない内容を解消しようと、たくさんの質問が出ました。

農業改良普及課は、今後も新たにできた直販所の出荷量増と安全・安心な栽培を目指し支援していきます。

労働力確保にロボットは活用できるのか？ ～川崎重工業（株）の視察～



川崎重工業（株）での様子

8月30日、JA土佐くろしお管内のJA職員と関係市町村職員とともに、神戸市の川崎重工業（株）神戸西工場を視察しました。

JAの集出荷施設や農家生産現場へのロボット導入の可能性について、実態にあった話を伺うことができました。「ロボット導入経費はどれくらいか」「導入の手続きはどう進めていくのか」など、実際の質問がでて、導入に積極的な様子が伺えました。

数年後に予想される集出荷場の統合時のロボット導入について関係機関で情報や認識が共有でき、機運の高まりを感じました。

農業改良普及課では、不足しつつある労働力の確保やロボット等の導入による省力化へ向けて、関係機関と協議を続けていきます。

関係機関が一体となってGAPを進めよう ～JA職員とGAPについて学ぶ～



勉強会

8月5日、JA土佐くろしおの職員とGAPへの認識を共有するため、JA営農指導員と販売課職員が集まり、農業改良普及課職員が講師となりGAPの勉強会を行いました。

近年、J-GAPやG-GAP等様々なGAPが進められている中で、それぞれのGAPの違い等が明確になったとの意見が寄せられました。

農業改良普及課では、生産者GAPとともに集出荷場GAPについて、ガイドライン準拠GAPの普及に向けて、支援していきます。